

C-13 長袖パフスリーブのカフス文の研究—布の厚さとギャザー分量の關係—  
昭和女大短大 ○椎名米子 森本美知子

目的 長袖パフスリーブの縫製においてカフスのボタン、穴の位置、スナップの位置などが、製図時と、着用時で一致しないことがしばしばおこる。この原因を布の厚さ、ギャザー分量に關係ありと推定し、この方面から検討したので結果を報告する。

方法 ①実験用布 市販のキュプラ平織、綿ローン、混紡ギンガム、綿ブロード、綿シャーケスキン、綿クレープ、綿サッカー、綿ピケの8種類 ②ギャザー分量 0 cm, 手くびまわり/2, 手くびまわり×1, 手くびまわり×2の4段階 ③ギャザーを入れる方法 しろも手縫い法, ミシン縫い法の2方法 ④その他の縫製は各布地に適した糸, 針, 針目, ミシン条件とし、各2枚ずつの袖を縫製した。この縫製過程において、ギャザーをよせた箇所を *Thickness gauge* で1枚につき3箇所測定した。

結果 ①ギャザーをよせた時の布の厚さは、原布の厚さに対し、0cmは1.13~1.44倍 手くびまわり/2は1.71~4.53倍 手くびまわり×1は2.15~4.93倍 手くびまわり×2は2.75~6.80倍となり、しろも手縫い法もミシン縫い法もほぼ同傾向であった。尚分散分析の結果 布地間、ギャザー分量間にはそれぞれ1%水準で有意差がみとめられた。②ギャザーをよせた時の厚さと、原布の厚さとの相関は高く、防しぬ度はたて、よこともに低く、剛軟度はたては高く、よこは低く、着用時のカフス文の不足量との相関は高い値を示していた。③着用時の適度なカフス文は、布地の厚さ及びギャザーをよせた時の厚さを規準にした計算値とほぼ一致した。